

HU
VISION
2030
>>>>



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY



HU VISION 2030 Novel Japan University Model

第20代 北海道大学総長

寶金 清博



HU VISION 2030とは

大学発のイノベーションが、社会変革の牽引力となることは、欧米における数々の成功例がこれを実証してきました。今、この瞬間も、大学発のイノベーションは、現在進行形で世界を席卷しています。これに対して、日本の大学においては、優れた研究があるにもかかわらず、これを社会実装させるメカニズムが不十分でした。あるいは、基本的に、イノベーションを生み出すための大学の構造改革が欠けていたかもしれません。これが、失われた30年の大きな要因の1つでした。

私は、大学自身のイノベーションは、科学技術における教育・研究の卓越性“Excellence”と、教育・研究を社会に広げ地域課題を解決する社会展開力“Extension”の2つの要素からなると考えています。日本の大学は、かつてExcellenceにおいて欧米と肩を並べていましたが、Extensionのメカニズムが脆弱でした。その結果、ExcellenceとExtensionの2つのエンジンから人材と収益という果実を生み出し、その果実が次のExcellenceと

Extensionを生み出すという好循環・エコシステムの醸成が、日本においては遅れました。

これが、本学を含めて日本の総合大学が欧米の大学の後塵を拝することになった一因です。今、我が国の成長戦略の中で、「科学技術・イノベーション」が重要な成長エンジンと位置づけられています。大学と社会との協働によるイノベーションの創出、言い換えれば、ExcellenceとExtensionの統合を社会は強く求めています。

2014年に本学が定めた「北海道大学近未来戦略150」は、ターゲットイヤーを2026年に定め、北海道大学のビジョンを提示してきました。今回、上記のような大学のイノベーションに関する自己分析や社会の期待を受け、HU VISION 2030は、その4年先の2030年をターゲットイヤーとして、“Excellence”と“Extension”を明確に可視化し、その統合による好循環・エコシステム創成への北海道大学の中期的ビジョンを示すものです。

CONTENTS

HU VISION 2030 Novel Japan University Model	01 教育	07	05 ダイバーシティ	11
HU VISION 2030とは	02 研究	08	06 ガバナンス	12
北海道大学が目指す“Excellence and Extension”	03 社会との共創	09	07 財務基盤	13
HU VISION 2030 概念図	04 国際協働	10	08 持続可能性の追求	14

北海道大学が目指す “Excellence and Extension”

北海道大学のアイデンティティ

ビジョンを考える時、「アイデンティティ」の確認は必須です。歴史的背景、地理的な特性の再確認によるスタート地点の確認がなければ、明確なビジョンを考えることは不可能です。

北海道大学の起源は、1876年に設置された札幌農学校に遡ります。その設置の背景には、当時の政府が強い意志のもと、寒冷地における農業技術の開発と人材育成を行うことを目的とした経緯があり、日本の大学でも際立った成立上の特徴を有しています。本学はこの特徴を基盤として、北海道の広大な土地に唯一の総合大学として発展し、他に類を見ない個性を形成してきました。

その結果、①世界最大級の研究林と豊かな海洋研究に代表されるフィールド研究、②世界最先端をリードする複数の卓越研究、③地域課題解決を目指す社会展開力、④SDGsに繋がるサステナビリティの考えを大学創成

期から持っていたことなど、極めて個性的な強みが醸成されてきました。

北海道大学は、このアイデンティティを、ExcellenceとExtensionという2つの軸の座標系で捉え、好循環・エコシステムを創成し、150年の歴史の中で醸成されてきた比類なきアイデンティティを次の150年に向けて大きく飛躍させることを目指しています。

Novel Japan University Model

ExcellenceとExtensionは、重なる部分もありますが、むしろ直交する座標軸と考えられます。例えば、研究におけるExcellenceは、ディシプリン駆動型(学問駆動型)であり、世界的に確立されている研究計測指数であるTop10%論文比率などで測定されます。これに対して、研

究におけるExtensionは、イシュー駆動型(課題駆動型)の研究であり、その成果は、必ずしも、グローバルな研究力指標では測定されません。むしろ、社会課題の解決やSDGs達成への貢献、スタートアップ数などの社会的インパクトでその成果が測定されるものです。

HU VISION 2030は、このExcellenceとExtensionの好循環・エコシステムを創成するための先導的取組の指針を示すものです。

HU VISION 2030を実現することで北海道大学が目指す大学像は、世界の課題解決から大きな社会的インパクトを生み出す新しい日本型の大学モデル「Novel Japan University Model」と考えています。

Novel Japan University Modelとは、従来の日本の国立大学の取組を大きく超えるレベルで、国際社会・地域社会との連携を格段に強化し、協働による社会的インパクト・イノベーションを生み出す新しい公共財であり、経営体としての日本の基幹総合大学を意味します。そし

て、HU VISION 2030によるNovel Japan University Modelが目指す社会は、持続可能性の追求を基盤として、①地球、②社会、③人間という3つのフィールドにおいて、大学が教育・研究・社会共創を展開し、この3つが揃って初めて実現するWell-being社会です。

このHU VISION 2030では、2030年に向けた北海道大学の先導的取組を創案するための基本的方針を

1.教育、2.研究、3.社会との共創、4.国際協働、5.ダイバーシティ、6.ガバナンス、7.財務基盤、8.持続可能性の追求の8つの観点から、解像度を上げて提示します。

北海道大学は、2030年に向けて、HU VISION 2030を通して、Novel Japan University Modelを確立し、世界共通の目標である「持続可能なWell-being社会」の実現に向けて力強く歩みます。

2023年7月



Novel Japan University Model

HU VISION 2030

持続可能なWell-being社会の実現

持続可能性の追求

Pursuit of Sustainability

広大で豊かなフィールド資産やキャンパス環境を舞台に、教育・研究・社会との共創を実施し、SDGsを共通言語とした世界の課題解決に貢献

国際的なキャンパスの実現と、多様な国・地域・組織の人々との連携・協働

大学の活動を支える横断的な取組

多様性・公平性・包摂性の保証に向けた教育研究環境の整備

国際協働 International Collaboration

ダイバーシティ Diversity

教育

Education

多様な人々との交流を通じて、高度な専門性や幅広い知識・スキルを身に付け、グローバル社会や地域社会で活躍できる人材を育成

研究

Research

広大かつ多様なフィールドと、幅広い科学領域を網羅しているという強みを生かし、世界トップレベルの研究力を更に向上

社会との共創

Co-Creation with Society

地域と世界の将来を見据えた課題解決を推し進め、持続可能な発展やWell-beingの実現に貢献

諸活動の基盤

ガバナンス

Governance

適正かつ透明性の高い意思決定により、広く社会に認められる大学運営を実現

財務基盤

Financial Base

自律的経営と「人材・知・資金の好循環」による持続的成長を実現

教育・研究を社会に広げ地域課題を解決する 社会展開力

Extension

北大の基本的な価値観

4つの基本理念

フロンティア精神

国際性の涵養

全人教育

実学の重視

Excellence

科学技術における教育・研究の卓越性

HU VISION 2030

優秀な人材を幅広く受け入れるため、入学者選抜を分析・検証し、多様な背景を持つ学生を対象とした選抜や多面的評価を利用した選抜の拡充など、**選抜方法等の工夫・改善**を進める。

学士課程において身に付けるべき共通の素養として、コミュニケーション、チームワーク・リーダーシップ、創造性・チャレンジ精神、更には社会倫理・社会貢献の精神を涵養するため、**学部専門教育と連動した新たな教養教育プログラムを構築**する。



社会に対して学生の学修成果を客観的・多面的に示すため、新たな達成度評価を導入するとともに、入学前から卒業・修了後までの多様な学修履歴を蓄積・分析することで、**学生が身に付けた能力の可視化**を図り、あわせて**教育効果の確認と改革の好循環を推進**する。

01 Education

教育

北海道大学は、自然豊かな環境のもと、多様な人々との交流を通じて、最先端の研究に基づく高度な専門性や、Society5.0をはじめとする多様な未来社会を共創するために必要な幅広い知識・スキルを身に付け、グローバル社会や地域社会で活躍できる人材を育成する。

学生が安心して学修できるよう**経済支援制度の充実**を図るとともに、自然豊かなキャンパスの中で学生が正課の学びと課外活動を両立できる**修学支援環境**や、多様な学生が共存しながら学生生活を送ることができる**学生相談体制を整備**する。



国の方針や地域社会のニーズを踏まえた人材を育成するため、**企業や自治体等と連携して知や技術に関わる高度なリカレント教育プログラムを提供**するとともに、イノベーション創出や課題解決を担う人材を活用し、新たな知の循環を生み出す教育プログラムを実施する。

学士課程から博士課程までの**一貫したキャリア教育**や企業等との交流を通じて、幅広いキャリアパスへの興味と意欲を引き出す取組を行うとともに、大きく変容する社会を先導する**高度な博士人材「イノベーション・フロントランナー」**を育成するため、他者との協働や新しい社会・産業の創出に資する**社会実装力を養成する教育プログラムを展開**する。

学生が主体的に国際コミュニケーション能力、課題抽出・解決力、異分野融合展開力を培うことができるような**国際教育プログラムを整備**するとともに、多様な学修・交流の経験から身に付いた能力を可視化する仕組みを構築する。

自由な発想のもとで本学の強みを生かして実施される、**多様な研究の持続的な展開**に資するとともに、**卓越した研究を加速させる環境を整備**する。また、**異分野融合研究を促進**する施策を全学的規模で実施するとともに、国内外の研究者との連携を強化する。



化学反応創成研究拠点(ICReDD)やワクチン研究開発拠点(IVReD)を持続的に発展させるとともに、そのノウハウを活用しながら卓越した科学領域の新たな拠点化を推進し、**世界的研究拠点群の形成**を進める。

02 Research

研究

北海道大学は、広大かつ多様なフィールドを有し、幅広い科学領域を網羅しているという強みを生かし、イノベーションや課題の解決を通じて、世界トップレベルの研究力を更に向上させる。

URA組織を強化し、**高度できめ細やかな研究マネジメントを展開**する。また、研究を支える**技術職員が培ってきた知見や技術の継承と発展**を組織的に進める。



博士課程学生から教授ポストまでを見据えた切れ目のない人材育成システムを活用して、将来の研究拠点リーダー候補となる国内外の**優秀な若手研究者を獲得・育成**する。

総合知による**地域と世界の課題解決への貢献**を目指すとともに、得られた知見を新たな研究に繋げる**好循環を確立**させる。



国際競争力を有する先進的な情報環境を整備し、高性能な人工知能・機械学習手法の展開やデータ駆動型研究の推進など、**デジタル技術を最大限活用した研究手法の改革を加速**させる。

Co-Creation with Society

社会との共創

良質な医療を提供するとともに、優れた医療人を育成し、先進的な医療の開発と提供を通じて社会に貢献する。

また、**未来を見据えた医療体制を構築し**、持続可能な地域医療の中核を担う。



北海道大学は、社会との共創により、研究成果の創出や社会実装、地域と世界の将来を見据えた課題解決を推し進め、持続可能な発展やWell-beingの実現に貢献する。

国内外に**産学連携拠点を構築し**、拠点を軸とした**研究成果の発信と社会実装を促進**する。

豊かな人生の実現に役立つ生涯学習機能を充実させるとともに、大学の社会資産を活用して、幅広い年齢層を対象とした地域交流、社会連携等に資する取組を実施し、**地域と社会の活性化を推進**する。

北海道全域に**スタートアップ・エコシステムを展開し**、新たに多数のスタートアップを創出させるとともに、**世界に通用するスタートアップ企業の育成**を図る。

スタートアップに繋がる実践型アントレプレナーシップ教育を学生に実施し、**起業や新事業創出に挑戦できる人材を育成**する。また、その活動を地域の小中高校生にも展開する。



地域と世界のニーズに対応すべく、**自治体、企業、他大学等との協働体制を強化し**、課題解決に資する知の創出及び人材育成を加速させるとともに、連携の繋がりを地域から世界へ広げていく。



本学の特色ある教育研究活動について、ウェブサイト、SNS及びメディアリレーションなどを通じて**戦略的に発信**することにより、**北大ブランドの価値を更に高め**、国内外における**多様なステークホルダーからの支持を獲得**する。

優秀な留学生の正規課程への受入れを促進するため、博士等の学位を取得した修了生が世界各国の大学等に職を得て後進を育成し、次世代の学生が本学に留学するという**「知の好循環」の推進**に向けた体制・環境を整備する。



優秀な留学生の受入れを促進するため、**一元的な情報発信、適正な資格審査、安全保障輸出管理の強化等**を行うとともに、重点地域・国別戦略に基づき、従来の手法に加えて**オンラインを活用した留学生リクルーティング活動**を展開する。

地域から世界規模の課題解決に貢献する本学の優れた国際的な取組を積極的に発信することによって、**本学の国際プレゼンスを向上**させるとともに、それを優秀な留学生の正規課程への受入れや海外からの若手研究者獲得に繋げるための取組を展開する。

International Collaboration

国際協働

北海道大学は、多様なバックグラウンドを持つ学生・研究者・教職員が活躍する国際的なキャンパスを実現し、様々な国・地域・組織の人々と連携・協働して世界の課題解決に貢献し、持続可能で豊かな未来社会を牽引する。

全学的に関係を強化すべき**協定校との戦略的パートナーシップを質・量ともに充実**させることで、持続可能な社会の実現に向けた共同研究を活性化させ、国際共著論文の増加や、研究者・学生の国際交流の促進など、**教育研究面での相乗効果を創出**する。

グローバルに活躍できる人材を育成するため、全ての学生に海外留学を含む**多様な国際的学修機会を提供**するとともに、全ての教職員にとって包摂的かつ魅力的な国際協働環境である**「多文化共生キャンパス」を実現**する。



05 Diversity

ダイバーシティ



ライフイベントなど個人の事由により構成員の活躍が制限されることなく、**各自の能力を存分に発揮できる就学・就労環境と各種支援制度の整備**を推進する。

北海道大学は、学内の多様性・公平性・包摂性を保証する観点で、大学の教育研究環境を整備するとともに優れた人材の育成に寄与し、「ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」の実現に向けて邁進する。

大学構成員が意識・無意識から成る偏見や差別の理解と改善に向けて行動し、**多様性を受容・包摂するマインド**を持って学業・教育・研究を遂行できるように**全学的な意識醸成**を推進する。

豊かな人間性と高い倫理観が育まれることを目指して、**全ての構成員へのダイバーシティ&インクルージョン教育を充実**させる。



全ての研究者が**性差による格差を乗り越え、各自の能力を最大限発揮できる研究環境の実現**に向けて、機会均等の取組を継続するとともに、上位職の女性研究者の比率向上に向けた人材育成及び活躍支援の取組を一層推進する。



学内に女子学生、留学生及び障害を有する学生など**多様な学生の受入れを促進するための取組を充実**させる。

アイヌ民族との歴史的経緯を踏まえ、アイヌ民族にルーツを持つ学生・教職員が安心して過ごせる環境を整備するとともに、**学内外のアイヌ民族とその他の大学構成員の共生に向けた取組を推進**する。

06 Governance

ガバナンス

執行部の役割分担と連携の実効性を高めるとともに、**次世代の大学経営**を見据え、本学を取り巻く環境に応じた**最適な意思決定プロセスの実現**に向けた組織体制を整備する。

本学のIRデータの可視化・共有基盤である北海道大学Business Intelligence(北大BI)を有効に活用し、**エビデンスに基づいた施策立案機能を向上**させる。



高い倫理観に裏打ちされた公平公正な大学運営を堅持し、本学の社会的信頼を高めるため、**コンプライアンスを推進・徹底**する。

北海道大学は、総長のリーダーシップを支える執行部の役割分担と緊密な連携により、適正かつ透明性の高い意思決定を行うとともに、構成員が誇りと希望と充実感を持って価値創造できる基盤を整備し、広く社会に認められる大学運営を実現する。

教職員が意欲を持って職務を遂行するため、**教員と事務職員等の適切な役割分担に基づく協働や組織的な連携体制**を確保するとともに、**意欲的な若手教職員が大学運営に参画**できる仕組みを構築する。

業務の標準化・平準化による生産性の向上と、**情報通信技術を駆使した「どこでも仕事ができる職場環境」の構築**により、多様な働き方を実現するとともに、教職員一人一人が**未来を切り拓くための新たな職務に邁進**できる環境を整備する。



自律的な自己点検・評価に基づいて、大学全体が一体となって改善と向上に取り組める体制を整備するとともに、多様なステークホルダーからの理解を得られるよう、**大学の運営体制や価値創造能力をわかりやすく社会に発信**する。





広大かつ特色豊かな
キャンパスが有する
資産価値の最大化に加え、
 リカレント教育プログラムや国際教育プログラムの
 積極的な展開等により、
新たな収益モデルを
構築する。

クラウドファンディングの活用や、
 ステークホルダーとのネットワーク強化等により
 フロンティア基金など
寄附金を大幅に拡大するとともに、
 それらを原資とした
戦略的な資金運用を実施する。



社会との共創により、
 保有する知的資産の
 ライセンス収入や間接経費及び
 受託事業等、
経営的収入の拡大を図る。

07 Financial Base

》 財務基盤

北海道大学は、多様かつ強固な財源の拡大による自律的経営と
 「人材・知・資金の好循環」による持続的成長を実現する。

「人材・知・資金の好循環」を
 推進するため、
新たな投資財源の確保や
予算配分システム改革を
 実行する。



大学病院や
 動物医療センターにおいて
 良質・先進的な医療を
 提供することにより、
社会貢献を通じた
収益の拡大を図る。

Pursuit of Sustainability

》 持続可能性の追求

北海道大学は、広大で豊かなフィールドをもとに形
 作られたキャンパス環境を基盤とした物的・知的資産
 を最大限に活用し、教育・研究・社会との共創を通じて
 「持続可能な社会」を実現する社会変革を先導する。

持続可能な社会の
 創り手を育成するため、
SDGsの基礎を
体系的に学修し、
その展開力を身に付ける
ための教育を推進する。



持続可能な
社会の構築に向けた
本学の取組に関する情報の
集約・発信力を更に向上させ、

価値観を共有した国内外の
 ステークホルダーとの連携を
 強化するとともに、
 キャンパス内での諸活動の
 継続的・多面的な検証を通じて、
 社会への効果的な
 還元につなげる。



本学の
キャンパスや
フィールド資源を、
社会の課題解決に向けた
実証の場となる
リビングラボとして活用し、
 省エネ・創エネと施設の環境性能向上や
 生物多様性の保全に向けた取組を通じて
 脱炭素社会の実現を図り、
 持続可能な発展に寄与する研究成果を
 世界に発信し貢献する。

SDGsの達成に貢献する
 イノベーション・コモンズ(共創拠点)の
 実現に向け、建設資源の有効利用にも配慮した
 キャンパスマスタープランを策定し、
 これに基づく施設の整備や長寿命化を進めることで、
 歴史的建造物やランドスケープを継承・活用しつつ、
 全ての大学構成員のWell-beingの実現や
 生産性の向上を志向した、
持続可能で周辺環境と
調和したキャンパスを構築する。

本学の構成員一人一人が
 矜持と尊厳を持って活動し、
 自らの可能性への挑戦を通じて個々の能力を
 最大限発揮することができるよう、
「SDGs」を共通言語とした
一体感の醸成と
倫理観の浸透
 に向けてあらゆる機会を提供し、
 大学としての総合力を
 向上させる。





HU VISION 2030

発行 北海道大学 総務企画部企画課
所在地 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
電話 011-716-2111(代表)
メール kikaku@general.hokudai.ac.jp
発行年月 2023年7月